

令和7年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立道塚小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・授業の過程を「課題、予想、観察・実験、結果、考察、結論」の形式で実施したことにより、学習が深まった。
- ・実物を用いた観察実験を行ったことで、実験に対する意欲が高まった。
- ・実物を用いた観察実験を行った事柄については知識の定着が充分図られた。

(2) 課題

- ・既習事項の知識・技能の定着が不十分な学年がある。
- ・基礎的な知識・技能の定着が不十分なため、活用や思考・表現につながらない。
- ・学力効果測定の問題のような活用力・思考力を問う問題に対して、無答が多い。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	正答率が目標値に対して9.4ポイントほど下回っている。特に、活用の問題に対して11.2ポイントほど正答率が低い。		
第5学年	正答率が目標値に対して2ポイントほど下回っている。特に活用の問題に対して、6.2ポイントほど正答率が低い。	正答率が目標値に対して、11.9ポイントほど下回っている。	
第6学年	正答率が目標値に対して5.3ポイントほど下回っている。特に活用の問題に対して、6.7ポイントほど正答率が低い。	正答率が目標値に対して、8.2ポイントほど下回っている。特に、活用の問題に対して、正答率が低い。	正答率が目標値に対して、7ポイントほど下回っている。 (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現
基礎的な知識や活用するための知識・技能が目的値を下回っている。	基礎的な知識が身に付いていないため、思考・表現は大幅に下回っていた。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現
活用するための基礎的な知識・技能の定着は学年により差が認められる。	基礎的な知識が定着できていないため目標値が下回り結果に差が認められる。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
次年度の学力効果測定で区の平均正答率との差を5ポイント以内することを目標にする。そのため、観察物等をきちんと用意し、知識を定着する時間を設け、継続して取り組むようにする。	次年度の学力効果測定で区の平均正答率との差を5ポイント以内であることを目標にする。そのために、問題を児童に考えさせる問題解決型学習を行っていくことで、科学的な思考力を育むようにする。	問題解決の過程を大切にしたい授業を行い、主体的に学習に取り組む態度を育てるようにする。

（2）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
次年度の学力効果測定で区の平均正答率との差を3ポイント以内であることを目標にする。そのために、実物を用いた実験観察を確実に実施し、学習の知識が定着できるようにする。	次年度の学力効果測定で区の平均正答率との差を3ポイント以内であることを目標にする。そのために、実験の度に、結果を考察するように授業を組み立て、児童に考える時間を確保できるようにする。	問題解決のための観察実験を繰り返し実施することで、意欲的に学習に取り組む態度を育てるようにする。